

文化財ニュース No. 69

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター

文化財調査研究センター ■所在地 〒675-0101 加古川市平岡町新在家1224-7（中央図書館2階、JR東加古川駅から北へ徒歩約10分） ■電話 (079)423-4088 ■FAX (079)423-8975 ■事務取扱時間 平日9:15~18:00（土・日曜、祝休日、12月29日から翌年1月3日まで、毎月第2月曜は休所）
■ホームページ <http://www.city.kakogawa.lg.jp>（文化財調査研究センター直結QRコード）



新しい登録文化財

令和8年3月10日の定例教育委員会で、文化財審議委員会の答申を受けた平岡町新在家の「石造五輪塔」と、米田町船頭の「七騎塚の碑」が、市登録文化財に加わりました。

これにより、市内の指定・登録文化財は、国指定23件（うち国宝2件）39点、県指定33件55点、市指定72件1,429点、国登録9か所37件、市登録5件になりました。

このたび、市登録文化財に登録されたものは、日頃から地域の人たちがお世話をしてくださっています。このように市内には地域の人たちの手によって守り伝えられている文化財が数多くあります。

地域の文化財を大切にしてくださっている皆さま方に厚くお礼申しあげます。

指定・登録文化財をはじめ、市内には多くの文化財があります。先人たちが伝えてきた地域の文化財を、心豊かな生活のために活用していくとともに、次世代に継承していくことについてご理解とご協力をお願いします。

石造五輪塔 1基 市登録 建造物

寸法／高さ 223cm（基礎／高さ56cm 縦横各78cm、塔身／高さ61cm 最大径79cm、笠／高さ49cm 縦横各73cm、宝珠・請花（一石）／高さ57cm 最大径45cm）

材質／石造、亀山石（流紋岩質溶結凝灰岩）製

時代／室町時代、15世紀前期頃

所在地／平岡町新在家786番地の4

所有者・管理者／新在家町内会

この石塔は、西国街道（江戸時代の山陽道）沿いの北側に建ち、江戸時代の『播磨名所巡覧図会』に載るなど、よく知られている大型で重厚感のある中世の石造五輪塔です。

この塔の記録として、文化元（1804）年の『播磨名所

巡覧図会』に「新在家ノ古塔、傍らに松樹を四五本うへて事ふりたり故ある人の古墳なるべし郷人云後深草ノ院建長六年に薨ぜられし足利左馬ノ頭義氏の墓なりと云」とあり、鎌倉幕府を支えた足利義氏（1189-1254年）の墓と伝えています。

一方、『加古郡誌』に載る近接する横蔵寺の天和2（1683）年に補記された「寺記」には、この石塔の記述と考えられるものとして「彼勤堂前有五輪浮図。傳道義氏將軍古祠。」とあり、そこに見える「道義」の文字が室町幕府三代將軍足利義満（1359-1408年）の法名であることから、この塔が、義満の供養塔として伝えられたものではないかとも考えられています。

室町時代につくられ、江戸時代には名所のひとつとなり、現在も多くの人々が行き交う西国街道沿いに建つこの石塔は、大型の石造五輪塔として造形の規範となっているとともに、西国街道の歴史的景観の名残りを今に伝えています。



石造五輪塔

七騎塚の碑 1基 市登録 歴史資料

寸法／総高（碑石頂～下台下）182.7cm

碑石／高さ105cm 幅43cm 奥行30cm

材質／石造、碑石及び上台は和泉砂岩製、中台及び下台は竜山石（流紋岩質溶結凝灰岩）製

時代／江戸時代 文化10(1813)年4月

文・書／表の文は古賀精里、裏の文と書は頼春水

所在地／米田町船頭306番地の2

所有者／船頭町内会

この石碑は、南北朝時代初めに、主君である出雲国守護塩冶高貞を追手から逃がすために、加古川のほとりで討死した7騎の武者を顕彰するものです。

表文は幕府の儒学者である肥前の古賀精里、碑陰文（裏面の文）と書は儒学者、詩人で頼山陽の父でもある安芸の頼春水によるもので、石碑は、文化10(1813)年、加古川驛本陣分家中谷三介らによって、加古川西堤の西国街道（江戸時代の山陽道）の南側に建てられました。その後、元の位置から北東方向に約130mの現在の大師堂の境内に移動しています。

南北朝時代の暦応4(1341)年、塩冶高貞が、足利尊氏の執事高師直の讒言により謀反の疑いをかけられ、京都を出奔し出雲に向かう途中、追手に加古川驛の西で追いつかれそうになった時、弟の塩冶重貞ら7人の騎従（馬に乗った家来）が、主を討たせまいと、この場

所に踏み止まり敵の軍勢と激しく戦い、遂に全員が討死してしまいました。この土地の人は、7騎の忠死を憐れんで、それぞれの亡骸の近くに塚を築いて厚く葬りました。後世にこれを七騎塚と呼ぶようになりました。宝暦12(1762)年頃の『播磨鑑』や文化元(1804)年の『播磨名所巡覧図会』など、江戸時代の地誌や名所案内には「七騎塚」は名所として詳しく記されています。

この石碑は、江戸時代の西国街道の名所として知られるようになっていた加古川を舞台にした物語を、優れた文章と書で表したものであり、文化的な意義があるものです。

文化財関係印刷物刊行のお知らせ

令和7年1月から12月までに新たに刊行した文化財関係印刷物は以下のとおりです。文化財調査研究センターをはじめ関係施設・機関で閲覧することができます。また、解説シート及び報告書などの印刷物をホームページで公開しています。

西条古墳群国史跡指定50周年記念冊子『行者塚古墳～墳丘・造り出しと埴輪・土製品の概要』（2025年、A4判24頁）（配布用、残部有）
『加古川市文化財年報第8号 令和4(2022)年度』（2025年、A4判52頁）
文化財解説シート（2025年、各A4判1枚両面刷） 第41号『稚児窟石棺蓋』、第42号『行者塚古墳』、 第43号『人塚古墳』、第44号『尼塚古墳』 （配布用、残部有）

(以上いずれも非売品)

文化財関係出版物の販売

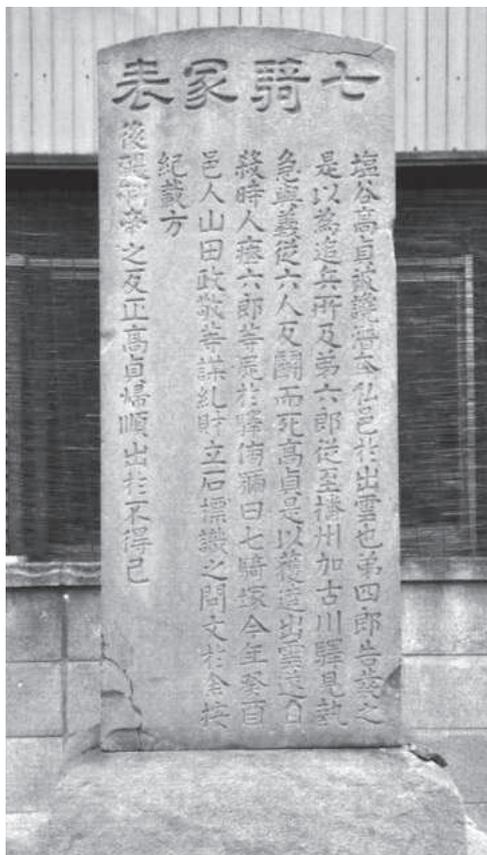
教育委員会では、過去に刊行した文化財関係出版物で残部があるものを販売しています。購入を希望する場合は、直接、来所ください。郵送の場合は、送料などが必要です。詳しくは文化財調査研究センターまで。

【普及図書】

『郷土のおはなしとうた第1集』（1974年初版2023年二版重版、A5判96頁）	600円
『郷土のおはなしとうた第2集』（1975年初版2023年二版重版、A5判94頁）	500円
『郷土のおはなしとうた第3集』（1976年初版2023年二版重版、A5判94頁）	600円
『加古川市の文化財』（1988年改訂、A5判123頁）	1,000円
『加古川市文化財図録』（1995年、A4判107頁）	3,800円

【文化財調査報告書】

『岸遺跡』（1972年、B5判23頁）	200円
『山之上遺跡Ⅰ』（1977年、B5判8頁）	200円
『東中遺跡発掘調査報告書』（1981年、B5判106頁）	1,200円
『加古川市埋蔵文化財集報Ⅰ』（1983年、B5判28頁）	500円
『加古川市の民俗』（1985年、B5判291頁）	1,200円
『加古川市遺跡分布地図』（1994年改訂、A4判291頁）	1,800円
『奥新田西古墳発掘調査報告書』（2000年、A5判41頁）	500円



七騎塚の碑

調査と報告

埋蔵文化財発掘調査

教育委員会では、埋蔵文化財保護のために調査を実施しています。令和7年1月から12月までに、遺跡内での工事について139件の届出がありました。

この届出などに基づいて、遺跡を破壊する可能性がある開発事業で埋蔵文化財の有無を調べる確認調査15件を実施し、遺跡の可能性のある地区での開発事業で試掘調査6件を実施しました。

確認調査では、志方中央地区土地区画整理事業に伴う観音寺城跡ほか（志方町）、美乃利遺跡（加



西中古墳

古川町)、西中古墳（^{めんこだに}面向谷古墳、志方町）、野口城跡（野口町）の4遺跡等で、試掘調査では加古川町友沢地区1か所で遺構を確認しました。

中でも、周辺整備に伴う西中古墳の確認調査では、土地所有者の協力があり、この古墳について墓道・羨



西中古墳現地説明会

道につながる部分をはじめ多くの情報を得ることができました。7月12日の現地説明会では42人の参加があり、その後も志方小学校で、教室での授業で古墳の解説を行ったり、現地解説を行う機会がありました。

その他、市内の埋蔵文化財調査としては、令和6年9月から令和7年3月にかけて、(公財)兵庫県まちづくり技術センターによって平荘小学校跡地の工事に伴った山角廃寺の本発掘調査が実施され、奈良時代か



移設後の山角廃寺塔心礎

ら近世にかけての寺院関連と考えられる遺構・遺物が多数確認されました。この工事を契機に、校庭の西側に置かれていた古代の塔心礎は、隣接する報恩寺の本堂前に移設して保存されることになりました。

確認調査の結果などをもとに、可能な限り遺跡が破壊されないよう関係者と協議します。そして、やむを得ず遺跡を破壊する場合は、記録保存のために本発掘調査を実施し、発掘調査報告書を発行することで、記録の保存と公開を行います。

現地での調査の後に、得られた情報を整理し、まとめる作業があります。この作業は手間と時間がかかります。令和7年度は、雁戸井地区ほ場整備事業に伴う令和2～4年度に実施した上村池遺跡のものをはじめ、令和6年度に実施した日岡山公園再整備事業に伴う南大塚古墳など、発掘調査報告書作成のための作業が行われました。

埋蔵文化財の保護のため、一般に「遺跡」と呼ばれている「周知の埋蔵文化財包蔵地」内で土木工事を行う場合、地中を掘る行為の60日前までに「発掘届」という届出をしなければならないことが文化財保護法で定められています。その届出に基づいて、埋蔵文化財を保護する必要がある場合は、関係者で協議することになります。

工事と埋蔵文化財保護を円滑に進めるために、土木工事などの計画がある場合は、早めに文化財調査研究センターにご連絡ください。

保護と活用

教育委員会では、市内の文化財保護のための事務として、指定文化財をはじめとする文化財についての整備や保存管理に対する補助や協力、各種手続き、必要な調査・指導、出土資料や県指定文化財「本岡家住宅」など加古川市が所有している文化財の管理を行っています。

また、文化財の公開、説明板の設置、講座・見学会の開催、講師の派遣など、文化財保護意識啓発のための事業を行うとともに、加古川市が管理している文化財についての調査の受入れや、展覧会などへの貸出しなども行っています。

その他、加古川市文化財保護協会（活動内容や入会方法については文化財調査研究センターにお問い合わせください。）や加古川文化遺産活性化実行委員会をはじめ、地域の文化財関係団体とともに、文化財保護のための保存と活用に取り組んでいます。

兵庫県指定文化財「本岡家住宅」の公開

平荘湖の北西の畔^{ほとり}にある少年自然の家の中に「本岡家住宅」という茅葺の建物があります。これは、江戸時代の元禄7(1694)年に、下村(現在の八幡町下村)の庄屋であった本岡嘉平治によって建てられた大型の民家建築で、兵庫県指定文化財に指定されています。この建物は、加古川市に寄附され、平成10(1998)年に少年自然の家の敷地内に移築保存されました。

見学には予約が必要で、一般公開は水曜日の10時と14時、日曜日の14時に現地集合となっています。事前(1週間前まで)に文化財調査研究センター(079-423-4088)に電話で申し込んでください。

特別公開は、5月5日「こどもの日特別公開」と、11月下旬の「秋の特別公開」があります。詳しくは案内チラシや文化財調査研究センターのホームページなどでご確認ください。

小学生の社会科見学「むかしの暮らし」などのガイドも行いますので、教育関係者の方もご検討ください。

その他、少年自然の家の無料散策日にも公開されています。無料散策日の詳細は少年自然の家のホームページなどでご確認ください。



本岡家住宅

文化財講座

文化財調査研究センターでは、毎年、地域の歴史や文化財についての理解を深めるための事業として文化財講座を開催しています。

令和7年度は加古川市民会館を会場に、11月16日「加古川の化け猫～伝承とその背景～」(埴岡真弓先生)、11月29日「5世紀の播磨・吉備・大和」(古市晃先生)、12月7日「加古川市内の古墳時代祭祀遺跡について」(大平茂先生)の3回の文化財講座を開催し、延べ200名の参加がありました。

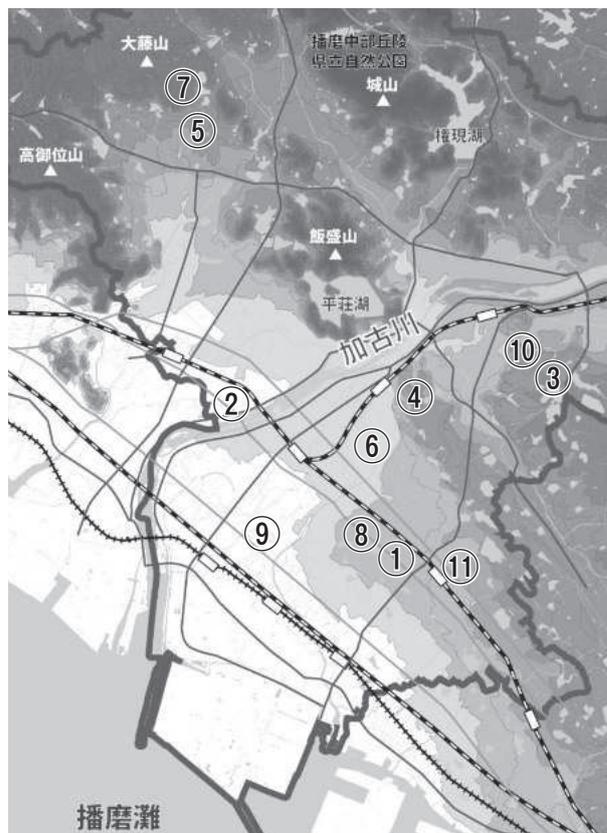
文化遺産総合活用推進事業協力

この事業は国の事業で、わが国の「たから」である地域の多様で豊かな文化遺産を活用した、伝統芸能・伝統行事の公開・後継者養成、古典に親しむ活動など、各地域の実情に応じた特色ある総合的な取組に対して支援することで、文化振興とともに地域活性化を推進することを目的としています。教育委員会では、市内の団体が実施する事業に協力しています。

令和7年度は「伝統文化親子教室」として獅子舞や茶華道など伝統文化伝承の20団体の事業が実施されています。

また、関係団体によって加古川文化遺産活性化実行委員会が組織され「地域伝統行事・民俗芸能等継承振興事業」として祭礼で使用する用具の修理など11件の事業が実施されています。

これらの事業の詳しい内容については、文化庁のホームページで確認し、事業の申請・実施にあたっては、加古川文化遺産活性化実行委員会、または文化財調査研究センターにご相談ください。



- ①石造五輪塔 ②七騎塚の碑 ③雁戸井地区(上村池遺跡など)
④日岡山公園(南大塚古墳など) ⑤志方中央地区(観音寺城跡など)
⑥美乃利遺跡 ⑦西中古墳(面向谷古墳) ⑧野口城跡 ⑨鶴林寺
⑩西条古墳群・行者塚古墳
⑪文化財調査研究センター・加古川総合文化センター博物館

文化財ニュース69号関係文化財地図